

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7695839号
(P7695839)

(45)発行日 令和7年6月19日(2025.6.19)

(24)登録日 令和7年6月11日(2025.6.11)

(51)国際特許分類

F I

E 0 6 B 3/964(2006.01)

E 0 6 B 3/964 A

E 0 5 D 13/00 (2006.01)

E 0 5 D 13/00 K

請求項の数 4 (全12頁)

(21)出願番号	特願2021-126558(P2021-126558)	(73)特許権者	504163612 株式会社 L I X I L
(22)出願日	令和3年8月2日(2021.8.2)		東京都品川区西品川一丁目1番1号 大
(65)公開番号	特開2023-21597(P2023-21597A)		崎ガーデンタワー
(43)公開日	令和5年2月14日(2023.2.14)	(74)代理人	100106002 弁理士 正林 真之
審査請求日	令和6年6月5日(2024.6.5)	(74)代理人	100165157 弁理士 芝 哲央
		(74)代理人	100126000 弁理士 岩池 満
		(74)代理人	100160794 弁理士 星野 寛明
		(72)発明者	大東 正樹 東京都江東区大島二丁目1番1号 株式 会社 L I X I L 内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 建具

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

枠体と、
前記枠体内に配置される外障子及び内障子と、を備え、
前記内障子は、縦框を有する框体と、前記縦框の上端部に取り付けられる上端部キャップと、を有し、
前記縦框は、室外側に配置される室外側縦材と、前記室外側縦材の室内側に配置される室内側縦材と、を有し、
前記室内側縦材の上端部は、水平に一直線状に形成され、
前記上端部キャップの下端部は、水平に一直線状に形成され、
前記上端部キャップは、外観視において、前記上端部キャップの下端部が水平に一直線状に視認されるように前記縦框の室内側の端部から室外側の端部に亘って形成される、建具。

【請求項2】

枠体と、
前記枠体内に配置される外障子及び内障子と、を備え、
前記内障子は、縦框を有する框体と、前記縦框の下端部に取り付けられる下端部キャップと、を有し、
前記縦框は、室外側に配置される室外側縦材と、前記室外側縦材の室内側に配置される室内側縦材と、を有し、

前記室内側縦材の下端部は、水平に一直線状に形成され、
前記下端部キャップの上端部は、水平に一直線状に形成され、
前記下端部キャップは、外観視において、前記下端部キャップの上端部が水平に一直線状に視認されるように前記縦框の室内側の端部から室外側の端部に亘って形成される、建具。

【請求項 3】

前記室外側縦材は、金属材料で形成され、
前記室内側縦材は、樹脂材料で形成される、請求項 1 又は 2 に記載の建具。

【請求項 4】

前記外障子及び前記内障子は、引き違い可能に構成され、
前記縦框は、前記外障子と前記内障子との召し合わせ部分に配置される召し合わせ縦框である、請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の建具。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本開示は、建具に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、外障子及び内障子を備える引違い窓において、内障子の召し合い縦框の下端部にキャップが取り付けられる構造が知られている（例えば、特許文献 1 参照）。特許文献 1 に記載の内障子の召し合い縦框は、縦材と、縦材の下端部に取り付けられるキャップと、を有する。

20

【0003】

特許文献 1 に記載の縦框の縦材の下端部は、段差状に形成され、縦材の下端部に取り付けられるキャップの上端部も、段差状に形成される。縦材の下端部にキャップが取り付けられた状態において、縦材の下端部とキャップの上端部の境界は、室内側からの外観視において、段差状に視認される。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【文献】実用新案登録第 3 0 2 7 0 5 1 号公報

30

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

特許文献 1 に記載の技術においては、縦材の下端部とキャップの上端部の境界が、外観視において段差状に視認されるため、見た目においてスッキリさせて意匠性を向上できる余地がある。また、縦材及びキャップの形状をシンプルな形状に形成すれば、製造コストを低減できる。従って、縦框を有する障子を備え、製造コストを低減できると共に、意匠性を向上させることが求められている。

【0006】

本開示は、縦框を有する障子を備え、製造コストを低減できると共に、意匠性を向上させることができる建具を提供することを目的とする。

40

【課題を解決するための手段】

【0007】

本開示は、枠体と、前記枠体内に配置される外障子及び内障子と、を備え、前記内障子は、縦框を有する框体と、前記縦框の端部に取り付けられる端部キャップと、を有し、前記縦框は、室外側に配置される室外側縦材と、前記室外側縦材の室内側に配置される室内側縦材と、を有し、前記室内側縦材の端部は、水平に一直線状に形成され、前記端部キャップの端部は、水平に一直線状に形成され、前記端部キャップは、外観視において、前記端部キャップの端部が水平に一直線状に視認されるように、前記室内側縦材の端部に取り

50

付けられる、建具に関する。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 0 8 】

【図 1】引き違い窓を室内側から見た正面図である。

【図 2】図 1 中の A - A 線に沿う横断面図である。

【図 3】内召し合わせ縦框に上端キャップ及び下端キャップが取り付けられた状態を室内側の左右方向の一方側の斜め上方から見た斜視図である。

【図 4】内召し合わせ縦框に上端キャップ及び下端キャップが取り付けられた状態を室内側の左右方向の他方側の斜め上方から見た斜視図である。

【図 5】図 3 中の B - B 線に沿う縦断面図である。

【図 6】図 3 中の C - C 線に沿う縦断面図である。

【図 7】内召し合わせ縦框の上端に上端キャップが取り付けられる状態を斜め上方から見た分解斜視図である。

【図 8】内召し合わせ縦框の上端に上端キャップが取り付けられる状態を斜め下方から見た分解斜視図である。

【図 9】内召し合わせ縦框の下端に下端キャップが取り付けられる状態を斜め下方から見た分解斜視図である。

【図 10】内召し合わせ縦框の下端に下端キャップが取り付けられる状態を斜め上方から見た分解斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 0 9 】

以下、本開示の実施形態について、図面を参照して詳細に説明する。本実施形態の建具は、引き違い窓 1 を示している。

【 0 0 1 0 】

本明細書において、「見付方向」とは、建物の壁に形成された開口部に納められた引き違い窓 1 における面材 3 5 , 4 5 の面方向を意味し、「見込方向」とは、上記面材 3 5 , 4 5 の厚さ方向（即ち、奥行き方向）を意味する。「見込方向」は室内外方向でもある。「見付面」は、引き違い窓 1 における室外側及び室内側に面するそれぞれの面を意味し、「見込面」は、引き違い窓 1 において室内外方向に延びる面を意味する。図面において、引き違い窓 1 の室外側を室外側 X 1 とし、引き違い窓 1 の室内側を室内側 X 2 とする。

【 0 0 1 1 】

引き違い窓 1 は、図 1 及び図 2 に示すように、図示しない建物躯体の開口部に取り付けられる枠体 2 と、枠体 2 の内側に配置される外障子 3 及び内障子 4 と、を備える。

【 0 0 1 2 】

枠体 2 は、上枠 2 1、下枠 2 2 及び左右一対の縦枠 2 3 , 2 4 を矩形に枠組みすることによって構成される。

【 0 0 1 3 】

外障子 3 及び内障子 4 は、いずれも引き戸であり、引き違い可能に構成される。外障子 3 及び内障子 4 は、これらを見付方向の左右方向（横方向）にスライド移動可能に構成されることで、枠体 2 の開口部が閉鎖又は開放される、いわゆる引き違い窓を構成する。

【 0 0 1 4 】

外障子 3 は、上框 3 1、下框 3 2、戸先側に配置される縦框 3 3 及び戸尻側に配置される縦框である外召し合わせ框 3 4 を矩形に框組した框体 3 0 の内側に、2 枚のガラスからなる面材 3 5 が納められることによって構成される。外障子 3 は、枠体 2 内の室外側 X 1 において、左右方向に移動可能に配置される。

【 0 0 1 5 】

内障子 4 は、上框 4 1、下框 4 2、戸先側に配置される縦框 4 3 及び戸尻側に配置される内召し合わせ框 4 4（召し合わせ縦框、縦框）を矩形に框組した框体 4 0 の内側に、2 枚のガラスからなる面材 4 5 が納められることによって構成される。内障子 4 は、枠体 2 内の室内側 X 2 において、左右方向に移動可能に配置される。

10

20

30

40

50

【 0 0 1 6 】

内障子 4 の内召し合わせ框 4 4 の見込面には、図 1 に示すように、戸締り用のクレセント錠 4 4 a が設けられている。

【 0 0 1 7 】

図 2 に示すように、外障子 3 の戸先側に配置される縦框 3 3 及び外召し合わせ框 3 4 は、金属框材 3 3 1 , 3 4 1 の室内側 X 2 に、樹脂框材 3 3 2 , 3 4 2 を取り付けた複合構造をそれぞれ有する。内障子 4 の戸先側に配置される縦框 4 3 及び内召し合わせ框 4 4 は、金属框材 4 3 1 , 4 4 1 の室内側 X 2 に、樹脂框材 4 3 2 , 4 4 2 を取り付けた複合構造をそれぞれ有する。金属框材 3 3 1 , 3 4 1 , 4 3 1 , 4 4 1 は、例えば、アルミニウム材料などの金属材料で形成される。樹脂框材 3 3 2 , 3 4 2 , 4 3 2 , 4 4 2 は、樹脂材料で形成される。

10

【 0 0 1 8 】

内障子 4 の内召し合わせ框 4 4 の上端部に取り付けられる上端キャップ 5 及び内召し合わせ框 4 4 の下端部に取り付けられる下端キャップ 6 の詳細について説明する。

【 0 0 1 9 】

内召し合わせ框 4 4 (召し合わせ縦框、縦框) は、前述した通り、図 2 に示すように、室外側 X 1 に配置される金属框材 4 4 1 (室外側縦材) と、金属框材 4 4 1 の室内側 X 2 に配置される樹脂框材 4 4 2 (室内側縦材) と、を有する。金属框材 4 4 1 及び樹脂框材 4 4 2 は、上下方向に延びる。内召し合わせ框 4 4 は、外障子 3 と内障子 4 との召し合わせ部分に配置される召し合わせ縦框である。

20

【 0 0 2 0 】

内召し合わせ框 4 4 の上端部には、図 3 ~ 図 6 に示すように、上端キャップ 5 (端部キャップ) が取り付けられる。内召し合わせ框 4 4 の下端部には、下端キャップ 6 (端部キャップ) が取り付けられる。

【 0 0 2 1 】

金属框材 4 4 1 は、図 2、図 7 ~ 図 10 に示すように、室外側 X 1 に配置される室外側中空部 4 4 1 a と、室内側 X 2 に配置される室内側中空部 4 4 1 d と、を有する。室外側中空部 4 4 1 a 及び室内側中空部 4 4 1 d は、内側が中空のホロー構造に形成される。室外側中空部 4 4 1 a 及び室内側中空部 4 4 1 d は、見込方向 (室内外方向) に並んで配置される。室外側中空部 4 4 1 a は、室内側中空部 4 4 1 d よりも長手方向の長さが長く形成される。室外側中空部 4 4 1 a 及び室内側中空部 4 4 1 d は、上下方向に延びて形成される。

30

【 0 0 2 2 】

室外側中空部 4 4 1 a は、内障子 4 の面材 4 5 の左右方向の端部に対向する位置に配置される。室内側中空部 4 4 1 d は、室外側中空部 4 4 1 a の室内側 X 2 に連続して形成され、内障子 4 の面材 4 5 よりも室内側 X 2 に配置される。図 7 及び図 8 に示すように、金属框材 4 4 1 は、室外側中空部 4 4 1 a の内側壁 4 4 1 b において、図 7 及び図 8 に示すように、上部側がネジ 4 4 1 c により上框 4 1 に固定され、図 9 及び図 10 に示すように、下部側がネジ 4 4 1 h により下框 4 2 に固定される。

【 0 0 2 3 】

樹脂框材 4 4 2 は、図 7 ~ 図 10 に示すように、金属框材 3 4 1 の外側に配置され、金属框材 4 4 1 の室内側中空部 4 4 1 d の左右方向の内側の面 4 4 1 e と、金属框材 4 4 1 の室内側 X 2 の面 4 4 1 f と、室外側中空部 4 4 1 a 及び室内側中空部 4 4 1 d の左右方向の外側の面 4 4 1 g と、を覆う。

40

【 0 0 2 4 】

樹脂框材 4 4 2 は、室内側板部 4 4 2 a と、左右方向外側板部 4 4 2 b と、一端側折り返し板部 4 4 2 c と、左右方向内側板部 4 4 2 d と、他端側折り返し板部 4 4 2 e と、を有する。

【 0 0 2 5 】

室内側板部 4 4 2 a は、板状に形成され、室内側 X 2 において、左右方向に幅を有して

50

形成され、上下方向に延びる。左右方向外側板部 4 4 2 b は、室内側板部 4 4 2 a の左右方向の外側の端部から室外側 X 1 に所定幅延びると共に、室内側板部 4 4 2 a に沿って上下方向に延びる。

【 0 0 2 6 】

一端側折り返し板部 4 4 2 c は、左右方向内側板部 4 4 2 d の室外側 X 1 の端部から左右方向の内側に屈曲されて折り返されて形成される。

【 0 0 2 7 】

左右方向内側板部 4 4 2 d は、室内側板部 4 4 2 a の左右方向の内側の端部から室外側 X 1 に所定幅延びると共に、室内側板部 4 4 2 a に沿って上下方向に延びる。左右方向内側板部 4 4 2 d は、左右方向外側板部 4 4 2 b の左右方向の内側に対向して配置される。左右方向内側板部 4 4 2 d の見込方向の幅は、室内側板部 4 4 2 a の見込方向の幅よりも短く形成される。

10

【 0 0 2 8 】

他端側折り返し板部 4 4 2 e は、左右方向内側板部 4 4 2 d の室内側 X 2 の端部から左右方向の外側に屈曲されて折り返されて形成される。

【 0 0 2 9 】

樹脂框材 4 4 2 の上端部 4 4 2 f は、図 5 に示すように、側方から見た場合に、水平に一直線状に形成される。具体的には、図 7 及び図 8 に示すように、上端部 4 4 2 f は、室内側板部 4 4 2 a の上端、左右方向外側板部 4 4 2 b の上端、一端側折り返し板部 4 4 2 c の上端、左右方向内側板部 4 4 2 d の上端、及び、他端側折り返し板部 4 4 2 e の上端から構成され、側方から見た場合に、全体が水平な一直線状に形成される。

20

【 0 0 3 0 】

樹脂框材 4 4 2 の下端部 4 4 2 g は、図 5 に示すように、側方から見た場合に、水平に一直線状に形成される。具体的には、図 9 及び図 10 に示すように、下端部 4 4 2 g は、室内側板部 4 4 2 a の下端、左右方向外側板部 4 4 2 b の下端、一端側折り返し板部 4 4 2 c の下端、左右方向内側板部 4 4 2 d の下端、及び、他端側折り返し板部 4 4 2 e の下端から構成され、側方から見た場合に、全体が水平な一直線状に形成される。

【 0 0 3 1 】

内召し合わせ框 4 4 の上端部には、図 6 に示すように、樹脂框材 4 4 2 が金属框材 4 4 1 の外側に配置された状態において、図 3 及び図 4 に示すように、上端キャップ 5 が取り付けられる。

30

【 0 0 3 2 】

上端キャップ 5 は、図 7 及び図 8 に示すように、上面が覆われると共に上面に段差を有する箱状に形成される。上端キャップ 5 は、室外側 X 1 及び下方側が開放されており、上部に室内側レール 2 2 1 が配置される溝 5 1 a が形成されている。

【 0 0 3 3 】

上端キャップ 5 は、室外側 X 1 に形成される室外側箱状部 5 1 と、室内側 X 2 に形成される室内側箱状部 5 2 と、を有する。室外側箱状部 5 1 と室内側箱状部 5 2 とは、見込方向（室内外方向）に並んで配置される。上端キャップ 5 の下端部 5 5 は、水平に一直線状に形成される。上端キャップ 5 の内部には、複数のリブ 5 0 1 が形成されている。

40

【 0 0 3 4 】

室外側箱状部 5 1 は、上端キャップ 5 の室外側 X 1 に配置される。室外側箱状部 5 1 は、上端キャップ 5 が内召し合わせ框 4 4 の上端部に取り付けられた場合に、金属框材 4 4 1 の室外側中空部 4 4 1 a の上部に配置される。

【 0 0 3 5 】

室外側箱状部 5 1 は、上部において上方に開放する溝 5 1 a が形成され、溝 5 1 a が形成されない部分は、上部が覆われた箱状に形成される。室外側箱状部 5 1 は、室外側及び下方側が開放し、室内側 X 2 の下部が、室内側箱状部 5 2 に連通する。

【 0 0 3 6 】

室内側箱状部 5 2 は、上端キャップ 5 の室内側に配置される。室内側箱状部 5 2 は、室

50

外側箱状部 5 1 の室内側 X 2 に配置され、室外側箱状部 5 1 よりも高さが小さく形成される。室内側箱状部 5 2 は、上端キャップ 5 が内召し合わせ框 4 4 の上端部に取り付けられた場合に、金属框材 4 4 1 の室内側中空部 4 4 1 d の上部に配置される。

【 0 0 3 7 】

室内側箱状部 5 2 は、下方側が開放し、室外側 X 1 が、室外側箱状部 5 1 に連通する。上端キャップ 5 が内召し合わせ框 4 4 の上端部に取り付けられた場合には、図 3 及び図 4 に示すように、上端キャップ 5 の下端部 5 5 が、内召し合わせ框 4 4 の上端部の内部側に配置され、内召し合わせ框 4 4 の上端部において高さ方向の所定幅の範囲で水平方向に重なって配置される。

【 0 0 3 8 】

これにより、上端キャップ 5 は、外観視において、上端キャップ 5 の下端部が水平に一直線状に視認されるように、内召し合わせ框 4 4 の樹脂框材 4 4 2 の上端部 4 4 2 f に取り付けられる。この状態においては、上端キャップ 5 の下端部 5 5 が水平に一直線状に視認された状態で配置されるため、スッキリとしたデザインとなり、意匠性を向上できる。

【 0 0 3 9 】

内召し合わせ框 4 4 の下端部には、図 6 に示すように、樹脂框材 4 4 2 が金属框材 4 4 1 の外側に配置された状態において、図 3 及び図 4 に示すように、下端キャップ 6 が取り付けられる。

【 0 0 4 0 】

下端キャップ 6 は、図 9 及び図 10 に示すように、下面が覆われると共に下面が段差を有する箱状に形成される。下端キャップ 6 は、室外側 X 1 及び上方側が開放されており、下部に室内側レール 2 2 2 が配置される溝 6 1 a が形成されている。

【 0 0 4 1 】

下端キャップ 6 は、室外側 X 1 に形成される室外側箱状部 6 1 と、室内側 X 2 に形成される室内側箱状部 6 2 と、を有する。室外側箱状部 6 1 と室内側箱状部 6 2 とは、見込方向（室内外方向）に並んで配置される。下端キャップ 6 の上端部 6 5 は、水平に一直線状に形成される。下端キャップ 6 の内部には、複数のリブ 6 0 1 が形成されている。

【 0 0 4 2 】

室外側箱状部 6 1 は、下端キャップ 6 の室外側 X 1 に配置される。室外側箱状部 6 1 は、下端キャップ 6 が内召し合わせ框 4 4 の下端部に取り付けられた場合に、金属框材 4 4 1 の室外側中空部 4 4 1 a の下部に配置される。

【 0 0 4 3 】

室外側箱状部 6 1 は、上部において上方に開放する溝 6 1 a が形成され、溝 6 1 a が形成されない部分は、下部が覆われた箱状に形成される。室外側箱状部 6 1 は、室外側 X 1 及び下方側が開放し、室内側 X 2 の下部が、室内側箱状部 6 2 に連通する。

【 0 0 4 4 】

室内側箱状部 6 2 は、下端キャップ 6 の室内側 X 2 に配置される。室内側箱状部 6 2 は、室外側箱状部 6 1 の室内側 X 2 に配置され、室外側箱状部 6 1 よりも高さが小さく形成される。室内側箱状部 6 2 は、下端キャップ 6 が内召し合わせ框 4 4 の上端部に取り付けられた場合に、金属框材 4 4 1 の室内側中空部 4 4 1 d の下部に配置される。

【 0 0 4 5 】

室内側箱状部 6 2 は、上方側が開放し、室外側 X 1 が、室外側箱状部 6 1 に連通する。下端キャップ 6 が内召し合わせ框 4 4 の下端部に取り付けられた場合には、図 3 及び図 4 に示すように、下端キャップ 6 の上端部 6 5 が、内召し合わせ框 4 4 の下端部の内部側に配置され、内召し合わせ框 4 4 の下端部において高さ方向の所定幅の範囲で水平方向に重なって配置される。

【 0 0 4 6 】

これにより、下端キャップ 6 は、外観視において、下端キャップ 6 の上端部が水平に一直線状に視認されるように、内召し合わせ框 4 4 の樹脂框材 4 4 2 の下端部 4 4 2 g に取り付けられる。この状態においては、下端キャップ 6 の上端部 6 5 が水平に一直線状に視

10

20

30

40

50

認された状態で配置されるため、スッキリとしたデザインとなり、意匠性を向上できる。

【 0 0 4 7 】

本実施形態によれば、以下の効果が奏される。本実施形態においては、樹脂枠材 4 4 2 の上端部 4 4 2 f は、水平に一直線状に形成され、上端キャップ 5 の下端部 5 5 は、水平に一直線状に形成され、上端キャップ 5 は、外観視において、上端キャップ 5 の下端部 5 5 が水平に一直線状に視認されるように、樹脂枠材 4 4 2 の上端部 4 4 2 f に取り付けられる。

【 0 0 4 8 】

これにより、上端キャップ 5 の下端部 5 5 が水平に一直線状に視認された状態で配置されるため、スッキリとしたデザインとなり、意匠性を向上できる。また、樹脂枠材 4 4 2 の上端部 4 4 2 f は、水平に一直線状に形成され、上端キャップ 5 の下端部 5 5 は、水平に一直線状に形成されている。そのため、樹脂枠材 4 4 2 の上端部 4 4 2 f 及び上端キャップ 5 の下端部 5 5 に、切り欠きや段差等を形成するための追加の加工を必要としないため、製造コストを低減できる。

【 0 0 4 9 】

また、本実施形態においては、樹脂枠材 4 4 2 の下端部 4 4 2 g は、水平に一直線状に形成され、下端キャップ 6 の上端部 6 5 は、水平に一直線状に形成され、下端キャップ 6 は、外観視において、下端キャップ 6 の上端部 6 5 が水平に一直線状に視認されるように、樹脂枠材 4 4 2 の下端部 4 4 2 g に取り付けられる。

【 0 0 5 0 】

これにより、下端キャップ 6 の上端部 6 5 が水平に一直線状に視認された状態で配置されるため、スッキリとしたデザインとなり、意匠性を向上できる。また、樹脂枠材 4 4 2 の下端部 4 4 2 g は、水平に一直線状に形成され、下端キャップ 6 の上端部 6 5 は、水平に一直線状に形成されている。そのため、樹脂枠材 4 4 2 の下端部 4 4 2 g 及び下端キャップ 6 の上端部 6 5 に、切り欠きや段差等を形成するための追加の加工を必要としないため、製造コストを低減できる。

【 0 0 5 1 】

また、本実施形態においては、金属枠材 4 4 1 は、金属材料で形成され、樹脂枠材 4 4 2 は、樹脂材料で形成される。そのため、内召し合わせ框 4 4 は、金属枠材 4 4 1 の室内側 X 2 に、樹脂枠材 4 4 2 を取り付けけた複合構造を有する。これにより、断熱性及び防露性に優れる。

【 0 0 5 2 】

また、本実施形態においては、外障子 3 及び内障子 4 は、引き違い可能に構成され、内召し合わせ框 4 4 は、外障子 3 と内障子 4 との召し合わせ部分に配置される召し合わせ縦框である。ここで、引き違い窓 1 において、外障子 3 と内障子 4 との召し合わせ部分は、左右方向の中央に位置するため、視認されやすい。そのため、外障子 3 と内障子 4 との召し合わせ部分の内召し合わせ框 4 4 において上端部及び下端部の意匠性を向上させることで、引き違い窓 1 全体の意匠性を向上できる。

【 0 0 5 3 】

また、本実施形態においては、下端キャップ 6 は、内召し合わせ框 4 4 の下端部に取り付けられる。ここで、内召し合わせ框 4 4 の下端部は、使用者の目線が下方側を向きやすいため、内召し合わせ框 4 4 の上端部よりも、視認されやすい。そのため、内召し合わせ框 4 4 の下端部に取り付けられる下端キャップ 6 における意匠性を向上させることは有用性が高い。

【 0 0 5 4 】

以上、本開示の好ましい一実施形態について説明したが、本開示は、上述した実施形態に制限されるものではなく、適宜変更が可能である。

【 0 0 5 5 】

例えば、前記実施形態においては、端部キャップ（上端キャップ 5、下端キャップ 6）の端部を、縦框（内召し合わせ框 4 4）の樹脂枠材 4 4 2（室内側縦材）の端部の一部に

10

20

30

40

50

重なるように配置したが、これに限定されない。端部キャップ（上端キャップ 5、下端キャップ 6）の端部を、縦框（内召し合わせ框 4 4）の樹脂框材 4 4 2（室内側縦材）の端部に突き当てて配置してもよい。

【 0 0 5 6 】

前記実施形態においては、上端キャップ 5 及び下端キャップ 6 の両方を設けたが、これに限定されない。上端キャップ 5 及び下端キャップ 6 のいずれか一方のみを設けてもよい。

【符号の説明】

【 0 0 5 7 】

1 引き違い窓（障子）、2 枠体、3 外障子、4 内障子、5 上端キャップ（端部キャップ）、6 下端キャップ 6（端部キャップ）、4 0 框体、4 4 内召し合わせ框（召し合わせ縦框、縦框）、5 5 下端部（端部）、6 5 上端部（端部）、4 4 1 金属框材（室外側縦材）、4 4 2 樹脂框材（室内側縦材）、4 4 2 f 上端部（端部）、4 4 2 g 下端部（端部）

10

20

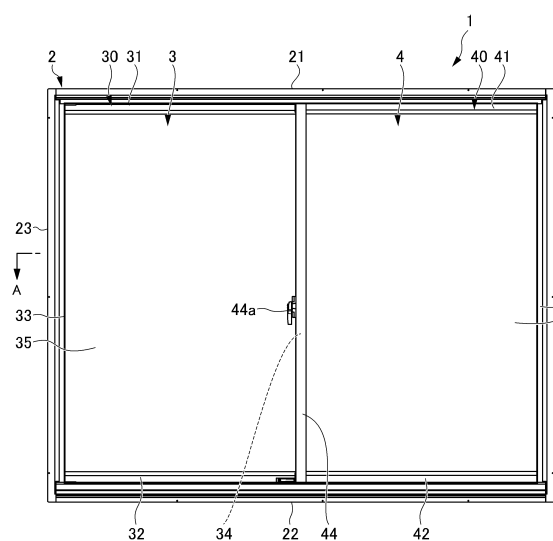
30

40

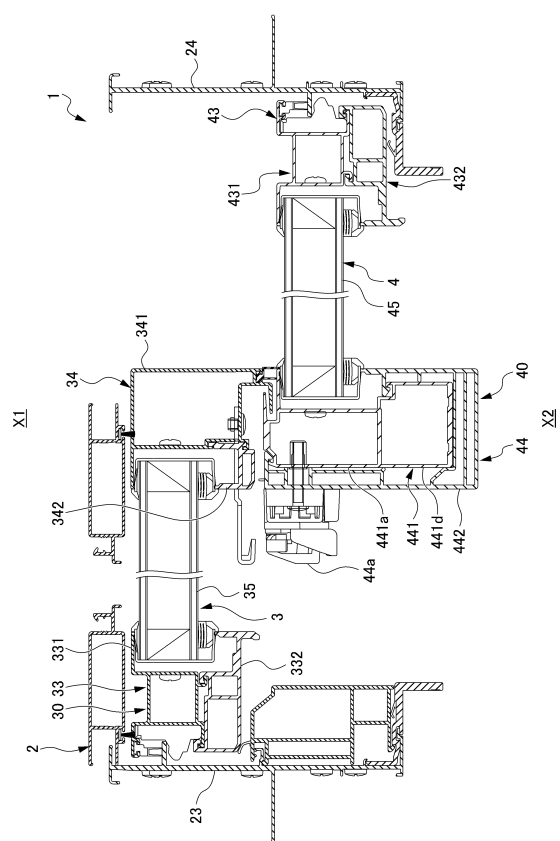
50

【図面】

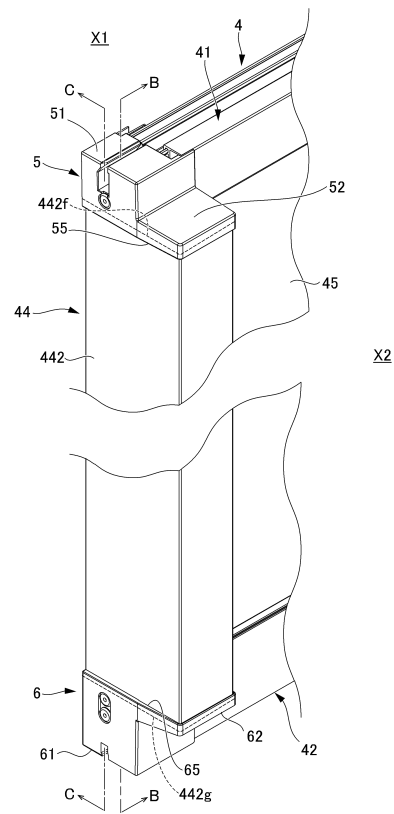
【 図 1 】



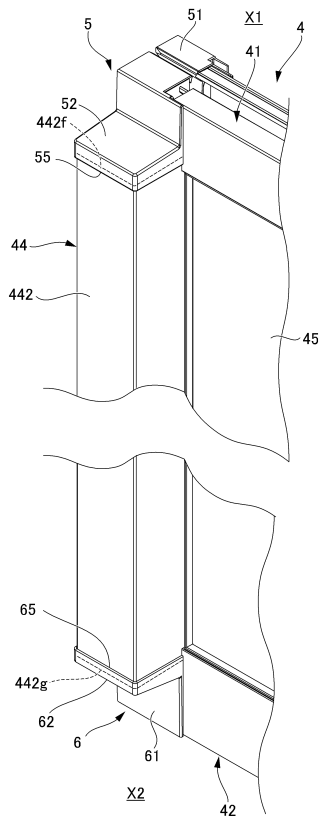
【圖 2】



【図 3】



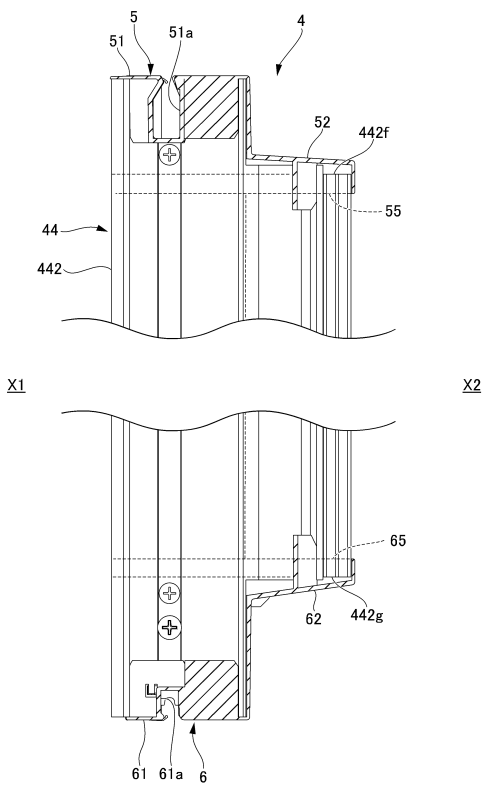
【図 4】



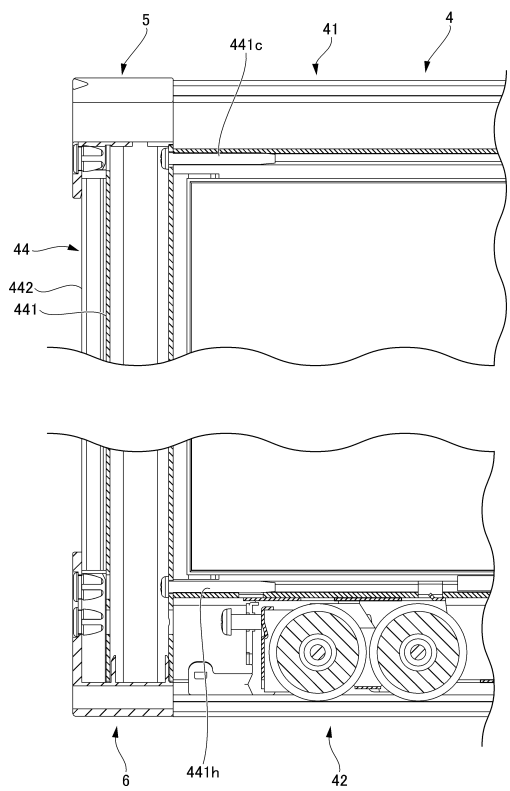
10

20

【図 5】



【図 6】

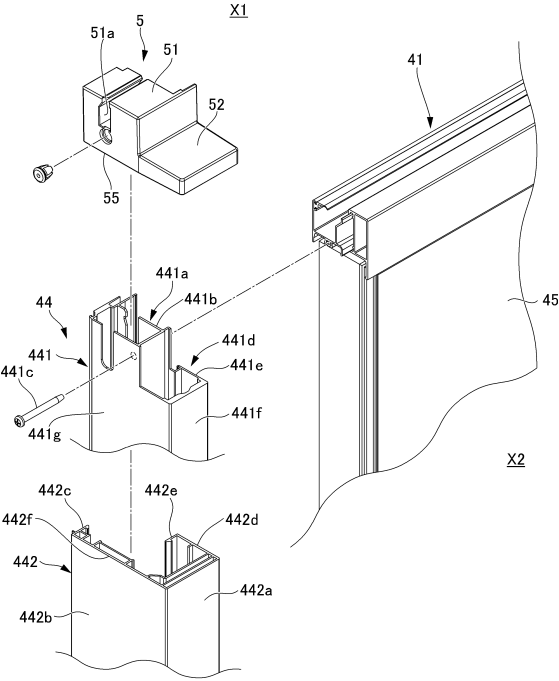


30

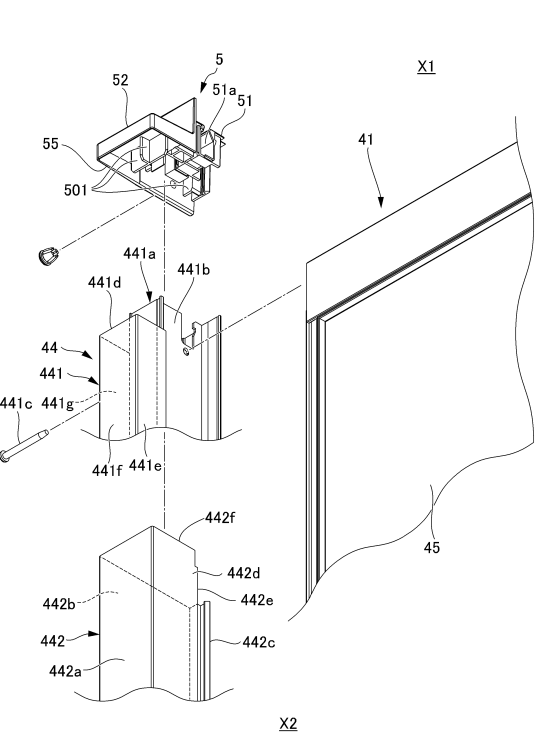
40

50

【図 7】



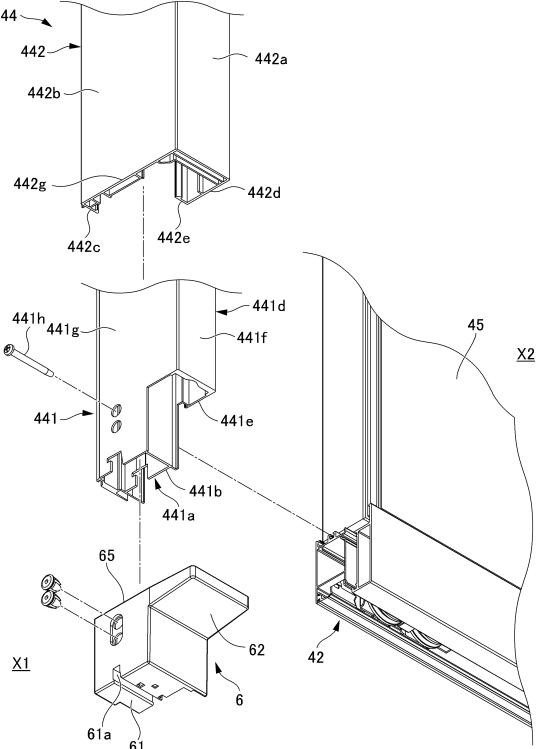
【図 8】



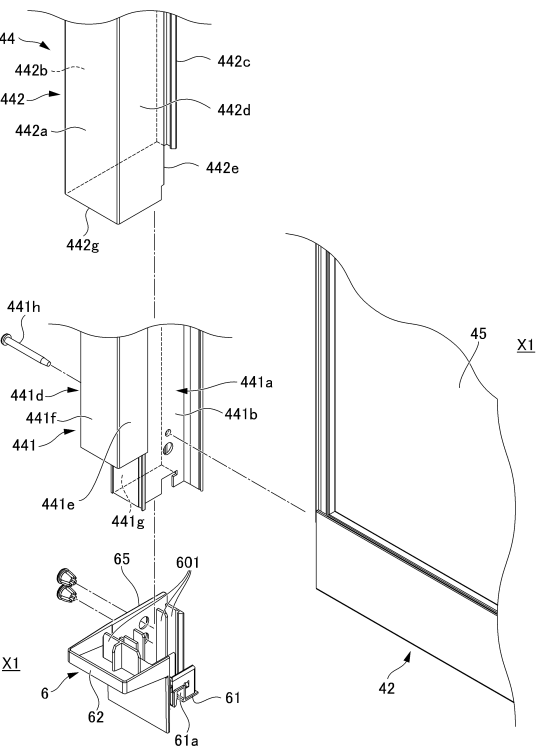
10

20

【図 9】



【図 10】



30

40

50

フロントページの続き

(72)発明者 石木 隆洋
東京都江東区大島二丁目1番1号 株式会社L I X I L内

審査官 杉田 翠

(56)参考文献 特開2020-153117(JP,A)
特開2020-070683(JP,A)
特開2020-204258(JP,A)
特開2022-180766(JP,A)
特開2007-191937(JP,A)
特開2014-167214(JP,A)
特開2009-228350(JP,A)

(58)調査した分野 (Int.Cl., DB名)
E06B 3/04 - 3/46
E06B 3/96 - 3/99